

がん相談業務 (院内におけるピアサポート)

相談記録シート集計報告

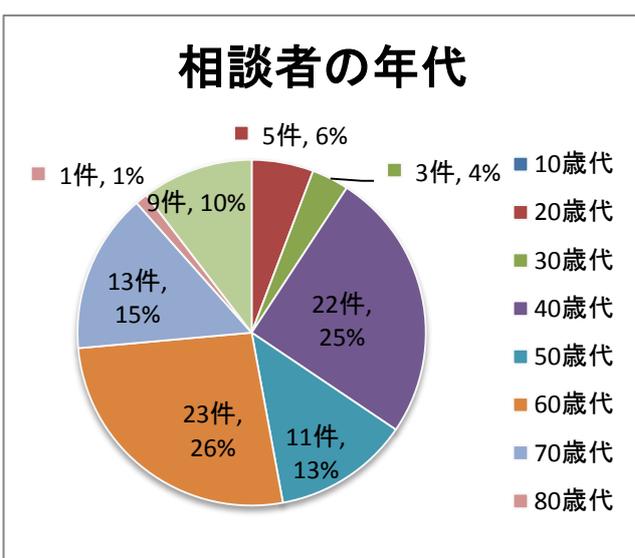
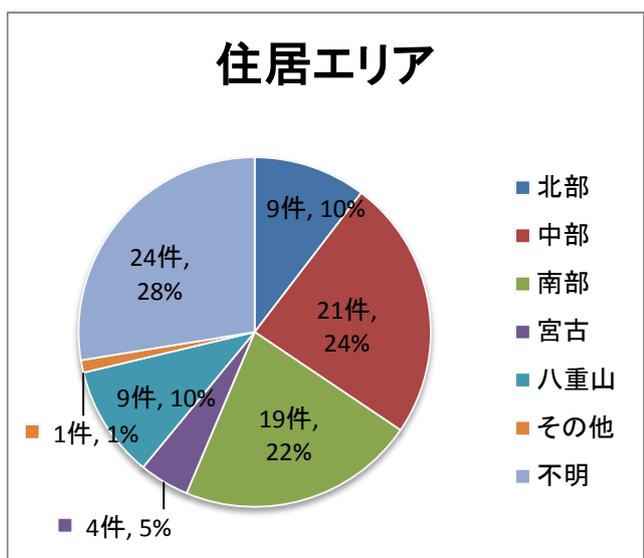
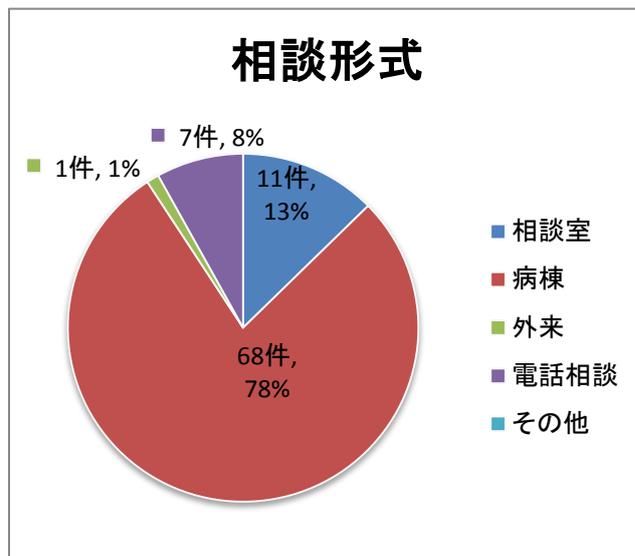
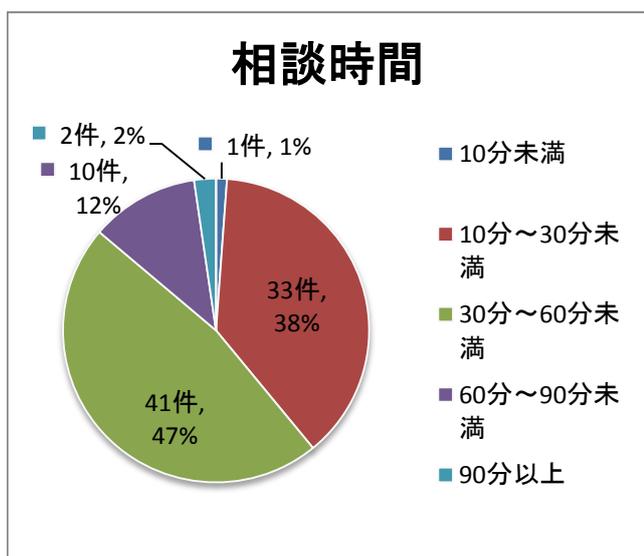
実施期間：平成29年10月1日～平成29年12月31日

がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

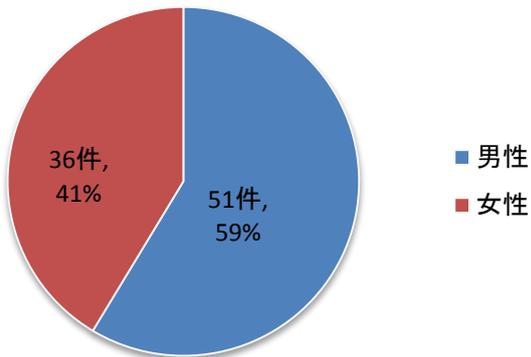
■ 調査対象期間 平成29年10月1日～平成29年12月31日

■ 調査件数 87 件

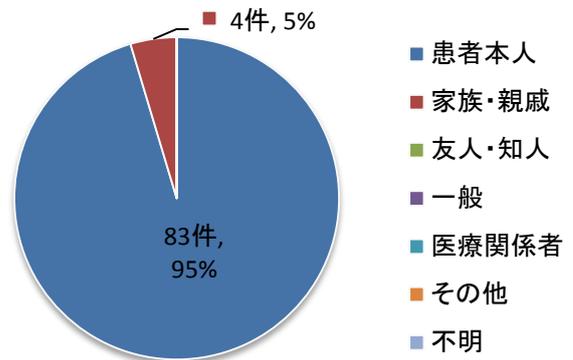
相談月	件数
10月	32
11月	26
12月	29
合計	87



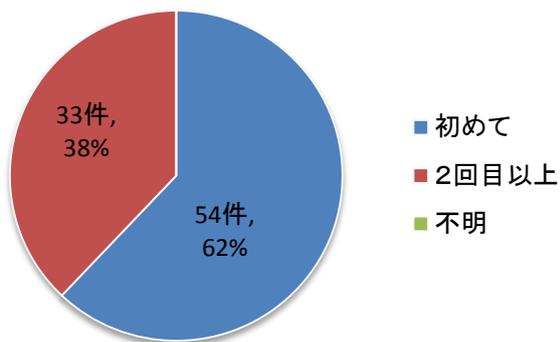
相談者の性別



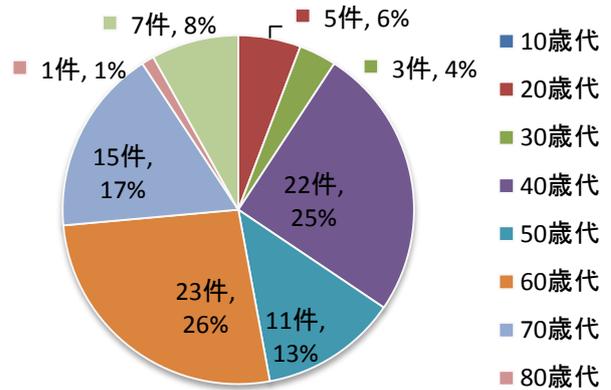
相談者のカテゴリー



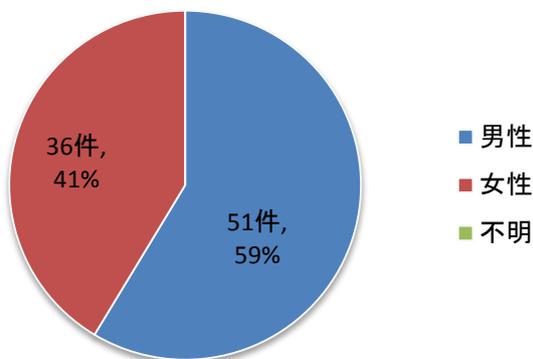
相談者の利用回数



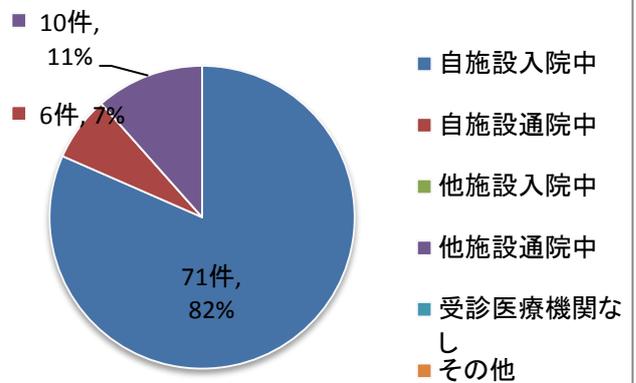
患者本人の年代



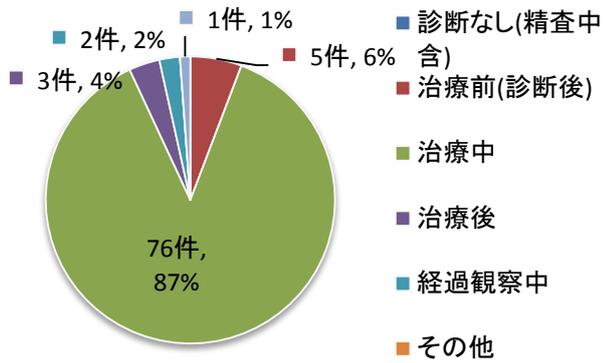
患者本人の性別



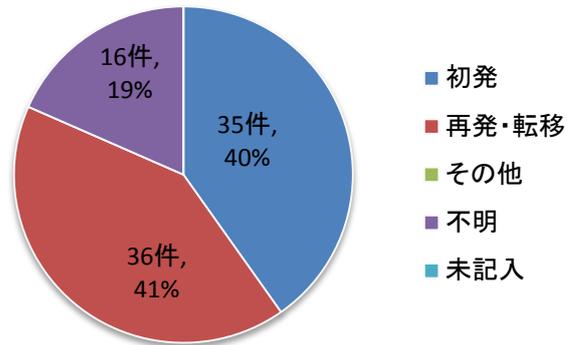
受診状況



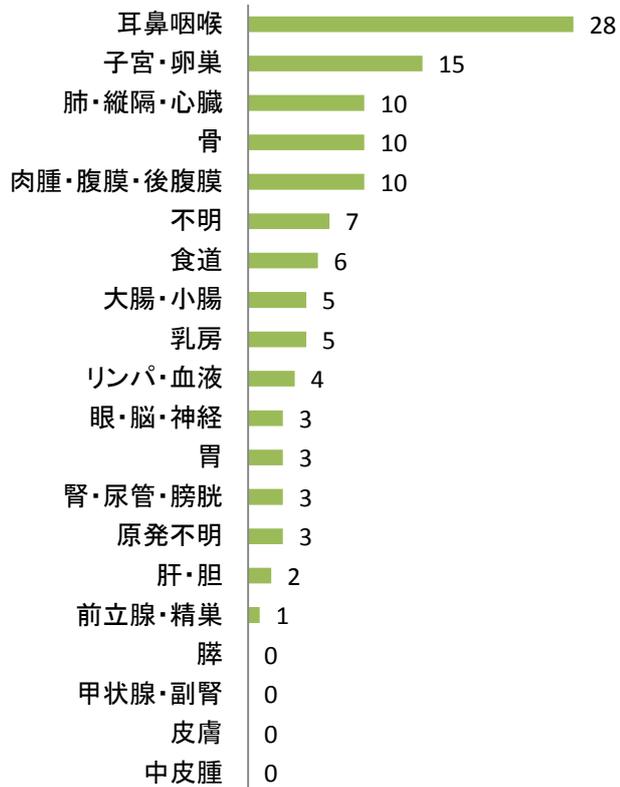
現在の治療状況



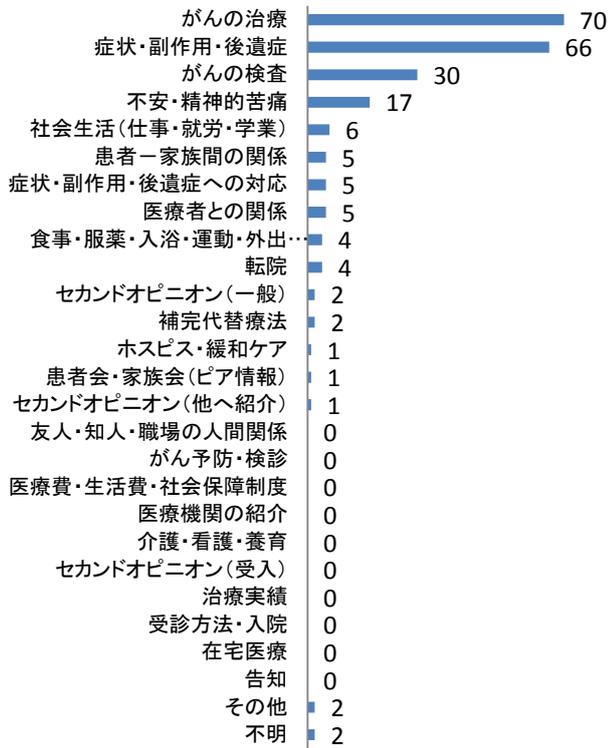
がんの状況



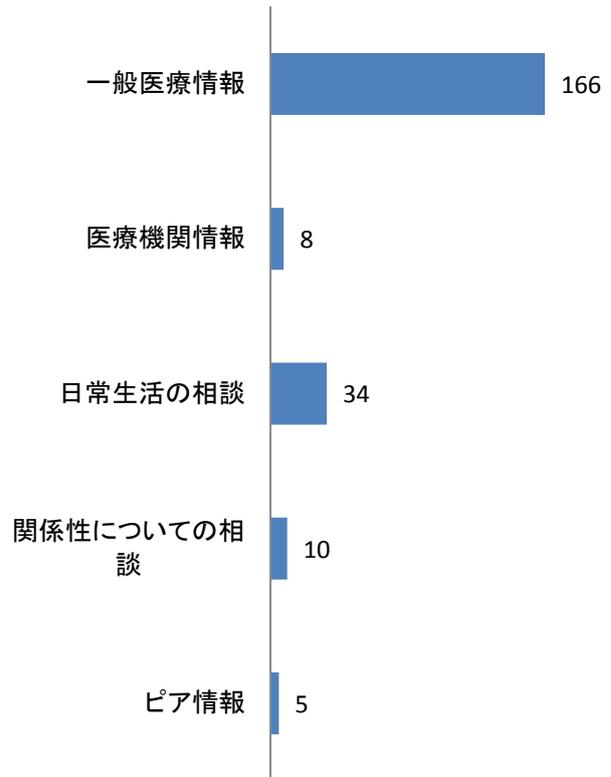
がんの部位



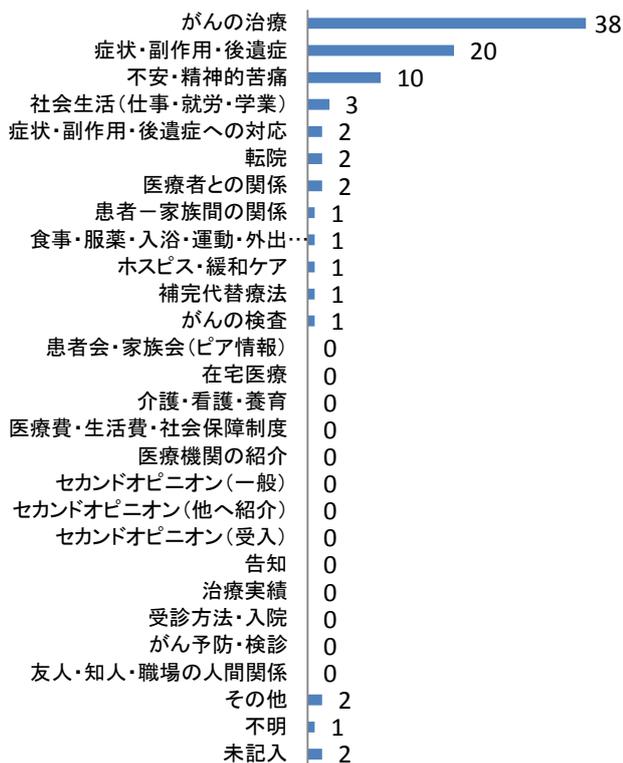
相談内容 (実施したものすべて)



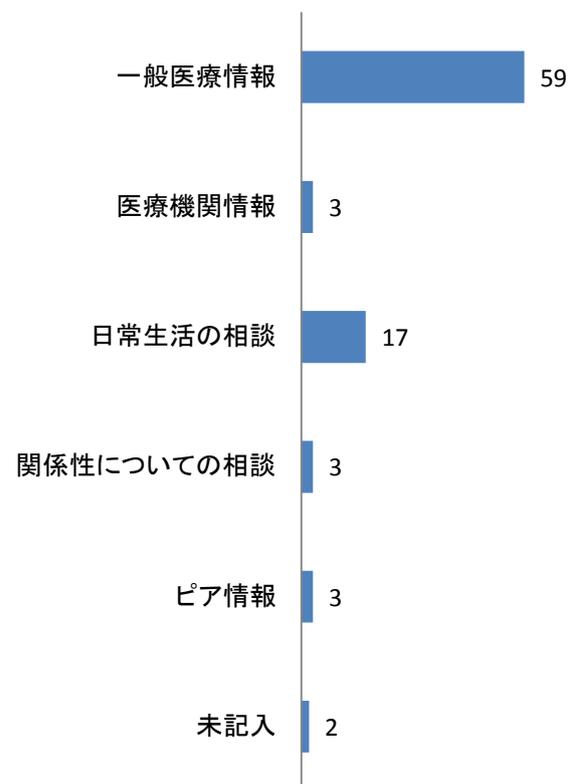
相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



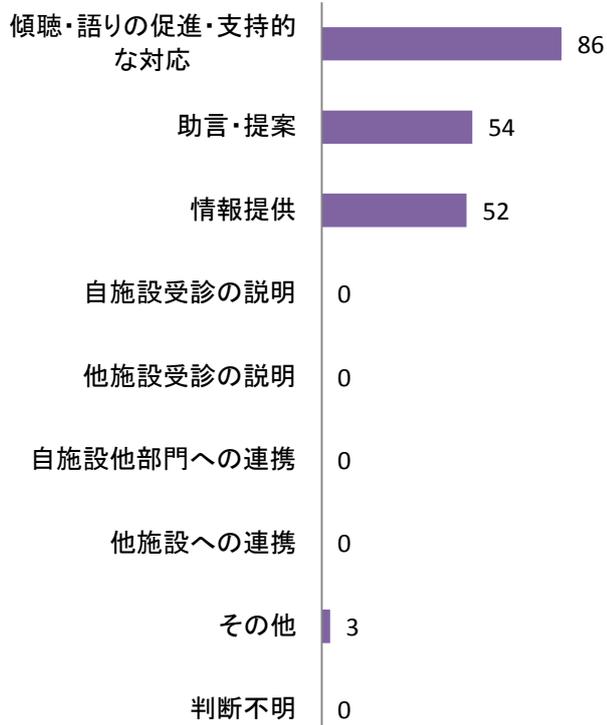
相談内容 (最も比重の高いもの)



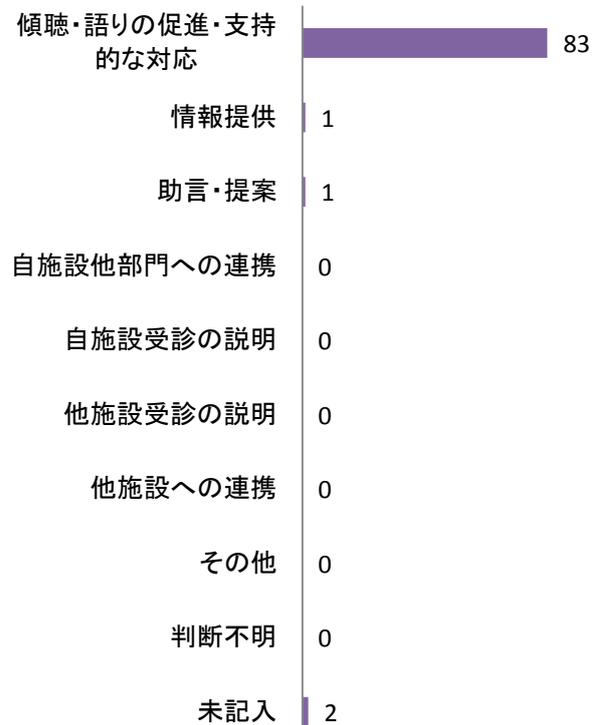
相談内容 (最も比重の高いもの・大項目別)



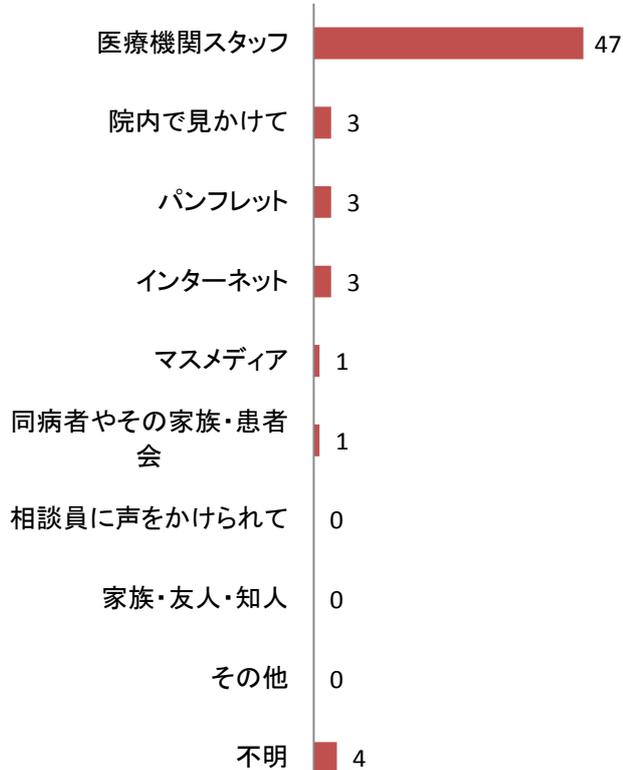
対応内容 (実施したものすべて)



対応内容 (最も比重の高いもの)



認知経路



患者会視察及び意見交換会報告書

●目的

相談室にてピアサポートをする際に患者会の紹介も行うため、実際の活動の様子を視察するとともに相互の連携を取るための意見交換を行う。

●名称：公益社団法人 日本オストミー協会沖縄県支部

●日時：平成 29 年 11 月 4 日（土）10：30～12：30

●場所：中頭病院 2階 講義室

●参加者：株式会社琉球光和 ヘルスケア事業部 ハッピーストーマ推進室 係長

平良 美代子 氏

中頭病院 皮膚・排泄認定看護師

嘉手川 厚子 氏

沖縄県地域統括相談支援センター 相談員

西村 克敏

沖縄県地域統括相談支援センター 相談員

橋本 佳奈

沖縄県地域統括相談支援センター 担当者

安里 君代

●内容

県内3ヶ所で行われている交流会のうち今回は中部地区へ赴いた。会場の講義室は、コンビニエンスストアが近くにあり参加者に分かりやすい場所となっている。また、近くに多目的トイレもあるとのことで、オストメイトが不安に感じることの多い点に配慮されている。

中頭病院との連携内容としては、病院は場所の提供を主とし年度当初に全日程分を確保しているとのこと。また皮膚・排泄認定看護師が常駐し、緊急性の高い事例に関して相談を受けるなどの対応、医療的な話題の方向修正を行うとしている。

交流会の目的は「友人を増やす」「情報交換」に重点を置き、参加者が中心となる会としている。そのため各地区にリーダー的な存在の人がおり会を取り仕切っている。参加者は中北部地区が5名程度で固定化しているが、南部地区は十数名の参加があるとのこと。割合としては男性が9割を占め、南部地区では女性の参加もある。ストーマを建設したばかりの人や、家族がオストメイトになったため情報収集に来る人も



▲左から嘉手川氏、平良氏、当センター相談員のふたり（と相談員の娘さん）。

いる。また数年間来ることのなかった人が時間の都合が合ったからと参加することもある。中頭病院認定看護師の嘉手川氏からは「家族の参加もあって良いが、やはり本人に来てほしい。外に出たくなくなり、社会とのつながりがなくなってしまうことが心配。外に出るきっかけにもなってほしい」との言葉があった。

交流会の雰囲気は和やかなようで、15～16年前には3地区合同でバスを借り、那覇から名護まで1泊2日の交流会を開催したこともあるとのこと。また交流会で知り合い、個別に出かけたり、南部地区では忘年会が開催されることもあるなど、会の目的に沿った運営がなされている。

会場にはストーマケア製品が展示されており、実際に手に取って試みることができ、使用感や洗浄方法など患者さん自身が実践していることが話題に挙がるとのこと。嘉手川氏と（株）琉球光和の平良氏が感心することもあるようで「ストーマ外来とは違い、同士の会だから本音が出る」とのことである。そのため治療や再発の不安、治療費等のことなど相談室で普段話されている内容はほとんど出ないとのこと。嘉手川氏によると、ストーマに関すること以外は外来の時に主治医等に聞いたりしているのではないかと説明があった。

また嘉手川氏からは、ストーマは定期的に外来でチェックしてもらうことが大事で、本人が問題と思っていることと医療者が問題と思っていることは違うことが多いという。交流会ではそのことにも触れ、継続的な外来受診を勧めている。

ストーマケア製品に関しては多種多様化しており、現在約 200 種類あるとのこと。金額も様々で個人の生活や使用感に合った製品を選ぶことも、患者さんにとっては時間がかかることもある。季節によって皮膚トラブルを起こすこともあり、心配ごとが絶えない中、患者さんは常に工夫をして過ごしている。そのことについて平良氏は「本当に皆さん研究熱心で頭が下がる思い。気づかされることも多く、製品に活かせることがあれば良い」と話された。

当センターからは、オストメイトのかたが不安に思うことに「トイレ」と「災害」があると聞くが、その対策は何かしているのかという質問をさせていただいた。トイレに関しては近年大型商業施設には多目的トイレの設置が増えていることに加え、インターネットで検索できる「沖縄県バリアフリーマップ」や「多目的トイレマップ」があるため、家族の協力が必要な場合もあるが比較的困ることはないだろうとのこと。災害時の対策として



▲ストーマケア製品の展示。手に取って質感など確かめることができる。



▲ストーマ製品のカタログ等。

は、「メーカーによるパウチの無償提供」「個人での備蓄」「水なしで交換できるように準備」「使用している製品のメーカーやサイズを把握しておく」と4点を挙げられた。メーカーによっては被災地へパウチの無償提供を行っているようだが、必ずしも使用している製品とは限らず自分に合わない場合もあるため、個人で1箱程度常に新しい製品と交換しながら備蓄を促しているとのこと。沖縄県は地震よりも台風によって注文した製品が届かない事態のほうが多く、そのためにも個人での備蓄は重要とのこと。また使用している製品の把握は、ほとんどの人ができていない状況のようである。琉球光和に個人から注文がある際には、あえて製品の名前やサイズ等を尋ね、覚えてもらえるような取り組みをしている。この件に関して嘉手川氏も同様の対応をしており、来院した患者さんに使用製品を尋ねることにしているとのこと。災害時対策は基本的には個人で行うべきだが、病院と企業の双方から患者へ声掛けを行うことで、対策を意識させている。

ストーマを建設すると身体障害者手帳が発行され、それによってケア製品は1割負担で購入することができる。しかし最近は一時的な建設をするひとも多く、その場合は手帳が発行されないため全額自己負担である。琉球光和では長期間全額自己負担で購入しているひとに対し、保障制度の案内を行っているとのこと。案内するまで制度を知らないひとも多いとのことである。

交流会の開催は中部地区は土曜日であるが、他の地区は金曜日である。開催曜日に参加者の増減があるのか尋ねたところ、中部地区に関しては曜日には左右されないとのこと。参加者は高齢者が多いため返って平日の参加が多い傾向にあり、土日は孫の世話をしていることが理由ではないか。特に女性の参加のある南部地区では土日では女性の参加が減るとのこと。男性はあまり左右されないのではないかとこの意見であった。

●所感

参加者の様子を伺っている間、平良氏と嘉手川氏が楽しそうにお話されていることから会の雰囲気もとても良いのではないかと感じた。また両氏の信頼関係や病院と企業の連携も強い印象を受けた。

交流会での話題はストーマに関することがほとんどという話から、病気に対する不安な気持ちの緩和を主としている当センターとは明確に住み分けができ、競合することなく協力し合えると考える。

話題の内容には「飛行機に乗れるのか」など、その時になってみないと考えないことに及ぶこともあるが、参加している者同士が教え合い、具体的な策を得ることができているようで参加者にとって有益な情報取得の場であると感じた。

災害時に備えた対策等の企業と病院の双方が地道に行っている点は、当センターでの相談対応時にも説明し、促すことができると考える。

がんピアサロン

開催報告

実施日：平成 29 年 11 月 11 日（土）

主催 沖縄県地域統括相談支援センター

RFL 実行委員との協働（合同）開催に関する事前調整

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 沖縄うらそえ」実行委員会打合せ

日 時 平成 29 年 10 月 6 日（金）19：20～21：00
場 所 沖縄大学 多目的学習室
出席者 実行委員長 上原弘美 氏（豊見城中央病院 ピアカウンセリング・ナース）
実行委員 15 名
事務局 嘉陽俊和 氏（ファイナンシャル・ジャパン（株）沖縄支社長）
沖縄県地域統括相談支援センター担当者 安里君代
内 容 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 沖縄うらそえ」よりイベント内での患者サロンの協働（合同）開催の依頼があったことにより、実行委員会の打合せへと参加し、依頼内容の確認及び開催概要の確認等を行った。持ち帰りによる検討の結果、ピアサポーターの参加は 21 時 30 分までとする条件を設けての協働開催が決定した。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 沖縄うらそえ」事前説明会

日 時 平成 29 年 11 月 5 日（日）14：00～15：00
場 所 ファイナンシャル・ジャパン株式会社 沖縄支社内
出席者 実行委員長 上原弘美 氏（豊見城中央病院 ピアカウンセリング・ナース）
実行委員 7 名
事務局 嘉陽俊和 氏（ファイナンシャル・ジャパン（株）沖縄支社長）
ブース出展者 5 名
沖縄県地域統括相談支援センター担当者 安里君代
内 容 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 沖縄うらそえ」ブース出展者、ボランティア団体への事前説明会が開催され、当日の注意事項や質疑応答が行われた。

開催概要

- 1 名称 がんピアサロン
- 2 日時 平成 29 年 11 月 11 日（土）
 昼の部 16：00～18：00（ウォーキング教室あり）
 夜の部 20：00～21：30
- 3 講師 昼の部 ウォーキング教室
 キャンサーフィットネス認定 インストラクター
 まじま なおこ 氏
- 4 場所 てだこ広場（リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 沖縄うらそえ内）
- 5 対象 がん患者、家族、遺族、医療関係者、関心のある方
- 6 定員 昼の部 20 名
 夜の部 定員なし
- 7 参加費 サバイバー：無料
 その他：リレー・フォー・ライフ・ジャパンへの参加費 1,000 円
- 8 目的 がんピアサポーターや他の参加者と語り合うことで不安や気持ちを分かち合い、情報を交換しながら病気に対する不安軽減につなげる。
 昼の部ではウォーキングの基本を学んだ後に皆で RFL のコースを歩くことによって楽しく体力づくりを行い、治療前後の体力低下の改善に活かす。
 特に話すことがなく情報を求めている人にも、ピアサポーターの体験談を聞いたり、がんに関する資料等を得られるよう情報コーナーを設置し提供する。
 サロンで対応経験を重ねることによりピアサポーターの質の向上を図る。
- 9 主催 沖縄県地域統括相談支援センター

タイムスケジュール

開始	終了	所要時間	内容	詳細
14:30	15:00	30分	ブース設営：アドバイザー 又吉さん	ブース内展示物設置 ①がんピアサポート展 ②情報コーナー
15:00	15:30	30分	集合 ●講師 まじま様 ●昼の部サポーター 事前打合せ	①顔合わせ ②サロンの流れ確認 ③ピアサポート活動の注意点 ④自己チェックシートについて ⑤その他
15:30	16:00	30分	受付開始 定員 20名予定	①受付名簿に記入してもらう。 ②参加者と分かるようにビブスを着用してもらう。
15:58	16:00	2分	主催者あいさつ	センター長：増田 昌人
16:00	17:00	60分	ウォーキング教室 講師：まじま なおこ 様 ●講義 20分 ●ウォーク 40分	①ピアサポーターもウォーキング教室に参加可。 ②参加しないサポーターはサロンの準備をする。
17:00	17:50	50分	フリートーク 安里到着予定	4グループに分かれて自由に話す ①各グループに2名 ピアサポーターを配置する ②2グループに1名 アドバイザーを配置する
17:50	18:00	10分	アンケート記入 参加者の解散	参加者へアンケートを記入してもらう。

開始	終了	所要時間	内容	詳細
18:00	18:30	30分	反省会（その場で）	①自己チェックシートの記入 ②全員で振り返り
18:30	18:40	10分	片付け 一時解散	会場の原状回復 昼の部のみのサポーターは解散
18:40	19:30	50分	休憩	
19:30	19:50	20分	集合 ●夜の部サポーター 事前打合せ	①顔合わせ ②サロンの流れ確認 ③ピアサポート活動の注意点 ④自己チェックシートについて ⑤その他
19:50	20:00	10分	参加者の受入れ	参加者を席へ案内する。
20:00	21:20	80分	フリートーク RFL 実行委員会と協働（合同）開催のため交流ブースにて行う。	2グループに分かれて自由に話す ①各グループに2名 ピアサポーターを配置する ②各グループに1名 アドバイザーを配置する
21:20	21:30	10分	アンケート記入 参加者の解散	参加者へアンケートを記入してもらう。
21:30	21:50	20分	反省会（その場で）	①自己チェックシートの記入 ②全員で振り返り
21:50	22:00	10分	片付け 解散	会場の原状回復

開催内容

【参加人数】

昼の部：ウォーキング教室5名、サロン5名

夜の部：サロン8名（リレー・フォー・ライフ実行委員を含む）

【スタッフ】

- ウォーキング教室講師 1名
- がんピアサポーター 9名
- 琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務員1名
- 沖縄県地域統括相談支援センター センター長1名
- ” 相談員3名
- ” 担当者1名

【振り返り】

・今回のサロンは、『リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 沖縄うらそえ』イベント内での開催や、昼夜の2回開催、他の組織との協働開催と初めての試みばかりの内容となった。

・ブースに関しては、事前に聞いていた配置と違い裏道のような立地条件となっており、全く人通りがなく、人の目に留まらない場所に変更となっていた。そのため昼のサロン参加者はわざわざブースを探して来てくださり、直接声掛けを行った方々のみとなっている。

・ブース内の机や展示物の設置は、担当者が不在であったため代わりにがんセンターの事務員が指示出しを行っている。またピアサポーターも事前準備を率先して行う人が出てきている。

・ウォーキング教室は参加者が少なかったものの、ピアサポーターも一緒に参加し好評であった。センター名を記した横幕を持ってもらうことで、広報も同時に行っている。RFL実行委員からも目立っていて良かったとの声があった。講師の先生のお話がとても良かったとの意見も複数あった。最初は講師の声が小さく聞き取りにくかったが、近くのブースにいた南部病院の笹良医師がマイクを貸してくださったおかげで、進行に影響することはなかった。

・サロンは昼夜ともにピアサポーターの満足度が高かったが、内容の重い人が参加していたこともあり、センター長へ引き継いだ案件もあった。

・RFL実行委員会と協働開催で行った夜の部は、交流ブースということで人は多かったようだが実行委員と参加者の区別がつかないなど、当センターにとって難点な部分もあった。

・ピアサポーターには石垣市から参加した人もおり、離島ではあまり活動機会がないこと

から緊張していたようだが、本島のピアサポーターとの交流にもなっていた。

・対応後のピアサポーターの感想としては、好きなことをやれるのは素晴らしいと教えてもらった、サロンで1対1対応ではなくアドバイザーと先生がいて良かった、自身の病気が悪くてもあきらめてない前向きなピアに出会い感心した、などが挙げられた。

【アドバイザーの視点】

・ウォーキング教室からサロンへの流れはとても良かった。一体感が生まれたのではないかな。

・ウォーキング教室は講師の先生が先頭の方が良かったと思う。また横幕も最初の1周だけで良いのではないかな。その方が歩きながらコミュニケーションが取れるかもしれない。

・サロンタイム時に子どもへの伝え方で盛り上がり、ピアサポーターが上手に対応していた。参加者とお互いにアドバイスし合うなど、とても良かった。

・重い内容の話の際もピアサポーターがよく傾聴していた。よく動き、自分の役割を正しく認識していた。

・石垣のピアサポーターは、準備の段階から何かしなくてはとの意識が強かったように感じた。何年も前に研修を受けてから全くピアサポートしていないと言っていたが、対応に問題はなかった。個人的に自分はどうだったかと問われたが、自信がないためにアドバイザーからの評価がほしかったのかもしれない。

・夜の部はピアサポートというより交流に近かった。雰囲気よく話していた。

・自己チェックシートの記入に力が入ってしまうため、振り返りの時間があまり持てなくなっている。

・会場はライブなどをしていて全体的にうるさかったし、がん患者さんが少なかったのではないかな。配置場所の問題かもしれないが、参加者が少なかった。昼の部のみ同様に開催し、夜は不要ではないかな。

【反省点】

・夜の部サロンはRFLとの協働開催であったが、当日の予定時刻までRFL側の担当者がブースにいなかったこともあり、打合せ内容と違っていただけに対処が十分にできなかった。そのためピアサポーターに戸惑いが生まれ、負担となってしまった。

・ピアサポーターからは、何と声掛けして良いのか分からなかったため、話を振るために自分の話ばかりしてしまったとの反省点があった。

・アドバイザーからは、振り返り時にピアサポーターに「やってみてどうだったか」をもっと聞けばよかったとの反省があった。

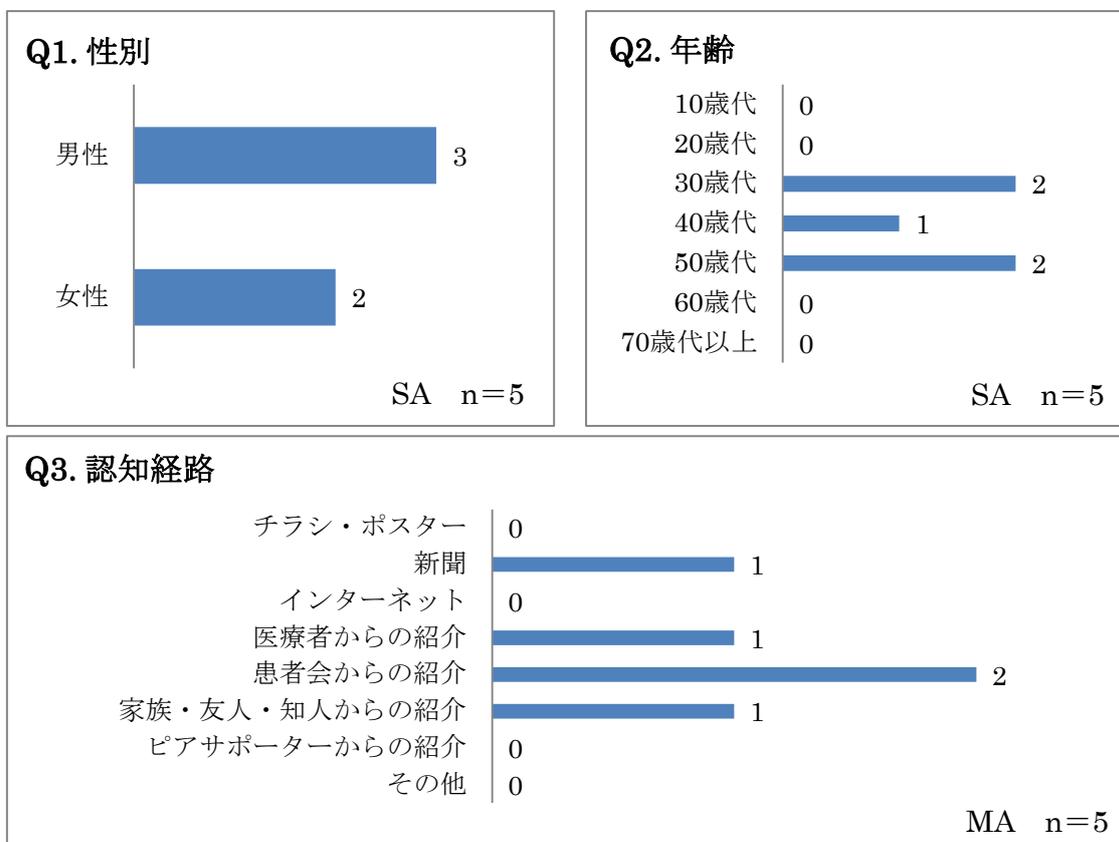
・ブース内のレイアウトに関して、資料は奥に設置すると誰も手に取らないため、前に出すべきであった。また自分たちの荷物置き場に困ったとの声もあった。

【今後の課題】

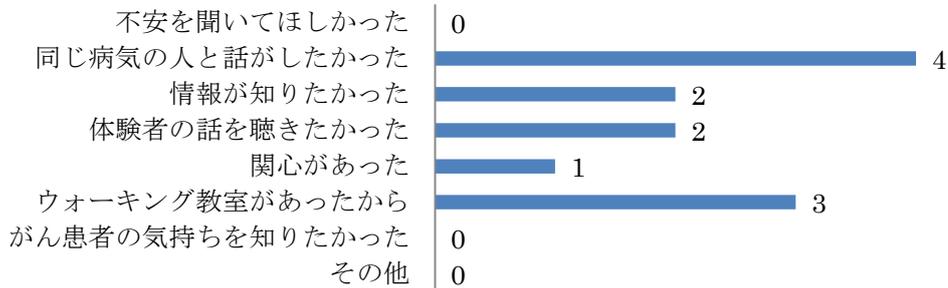
- ・ 次回のRFLでは、夜の部の開催をRFL実行委員会との協働も含めて検討すべきである。ピアサポーターにとってはRFLとの協働開催は他の患者会や支援者と交流できる場としてのメリットがある。デメリットとしては夜が遅い点やRFL実行委員会の打合せ会議に参加しなくてはならない点などが挙げられる。特に実行委員会の会議への参加は、打合せした内容が当日全く違っていたため会議への参加の必要性が見いだせない。結果的に当日ピアサポーターへの負担となることから、夜の時間帯や協働開催は検討すべきである。
- ・ ピアサポーターからは、声掛けの仕方などをもう一度勉強したいとの意見があり、フォローアップが必要である。
- ・ 一部のアドバイザーには振り返り時にすべき内容を再度説明し、アドバイザーの役割を認識してもらう必要がある。
- ・ ブース内レイアウトは、資料が通りがかりでも目に入るように前方に設置し、ブース内に声をかけることなく持ち帰れるよう配慮を行うなど改善すべきである。

アンケート集計結果

昼の部【参加者：配布5件、回答5件、回答率100%】

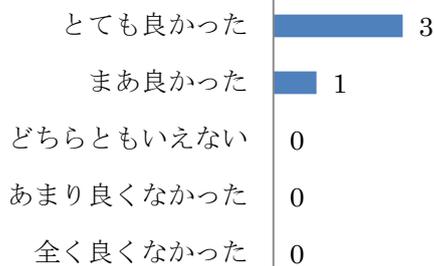


Q4. 参加しようと思ったきっかけ



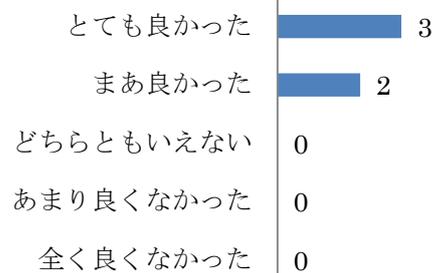
MA n=5

Q5. 「ヨガ体験」の内容



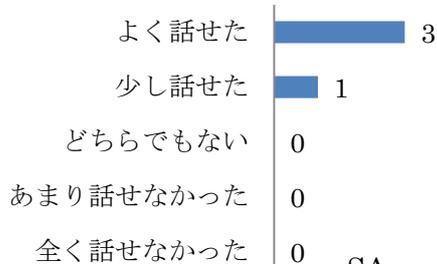
SA n=5

Q6. サロンの雰囲気や内容



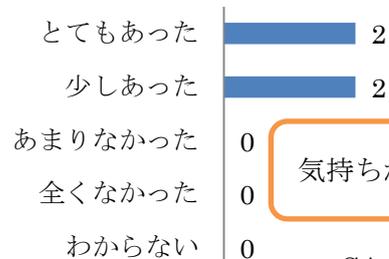
SA n=5

Q7. 話したいことを話せたか



SA n=5

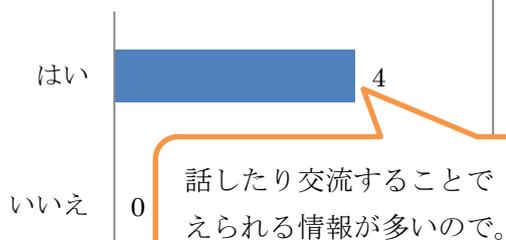
Q8. 参加したことで気持ちに変化はあったか



SA n=5

気持ちが明るくなった。

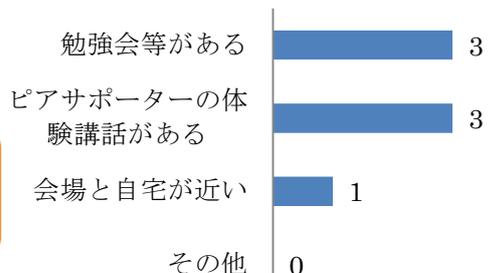
Q9. 次回も参加したいか



話したり交流することで
えられる情報が多いので。

SA n=5

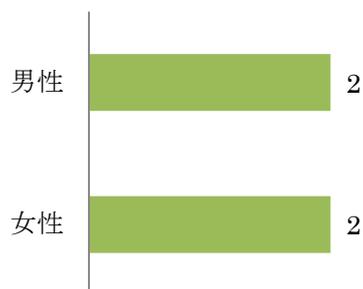
Q10. どんなサロンに魅力を感じるか



MA n=5

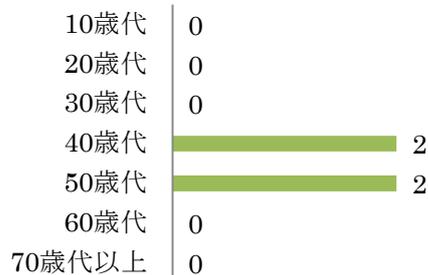
夜の部【参加者：配布6件、回答4件、回答率66.6%】

Q1. 性別



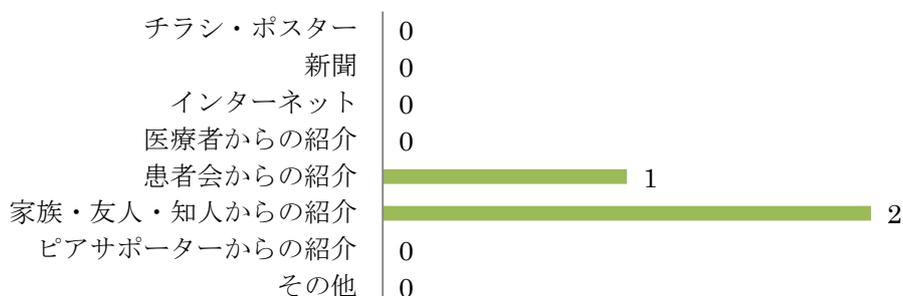
SA n=4

Q2. 年齢



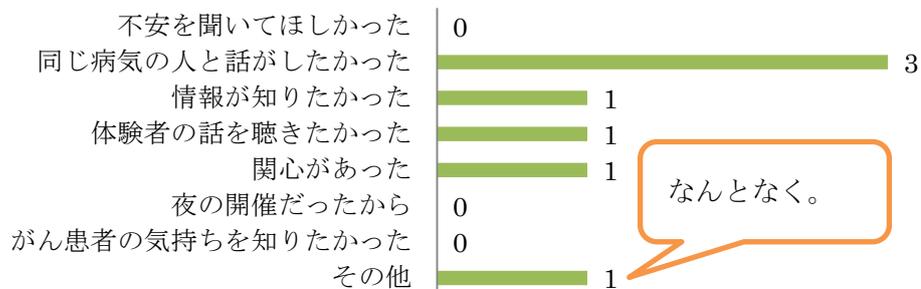
SA n=4

Q3. 認知経路



MA n=4

Q4. 参加しようと思ったきっかけ



なんとなく。

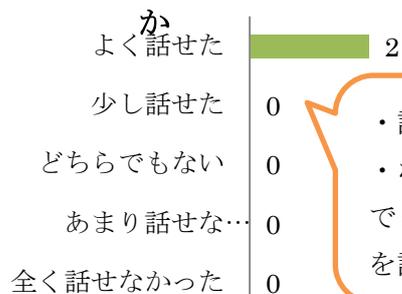
MA n=4

Q5. サロンの雰囲気や内容



SA n=4

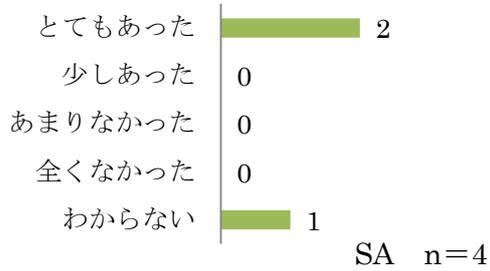
Q6. 話したいことを話せたか



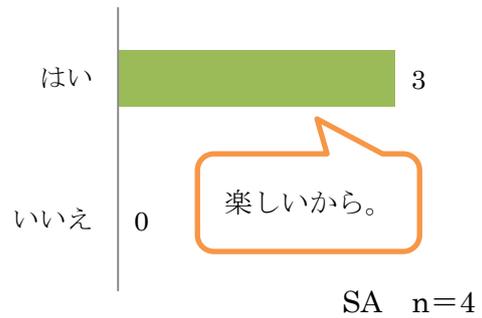
SA n=4

・話しすぎました。
・なんとなく来たのでどうでもいいことを話した。

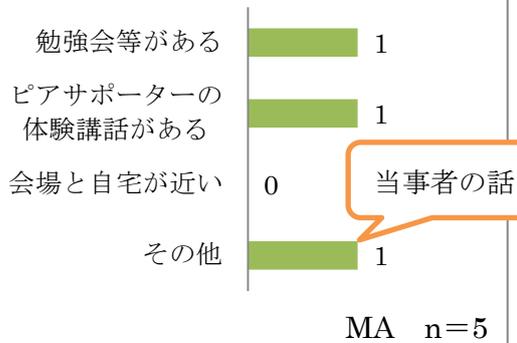
Q7. 参加したことで気持ちに変化はあったか



Q8. 次回も参加したいか



Q9. どんなサロンに魅力を感じるか

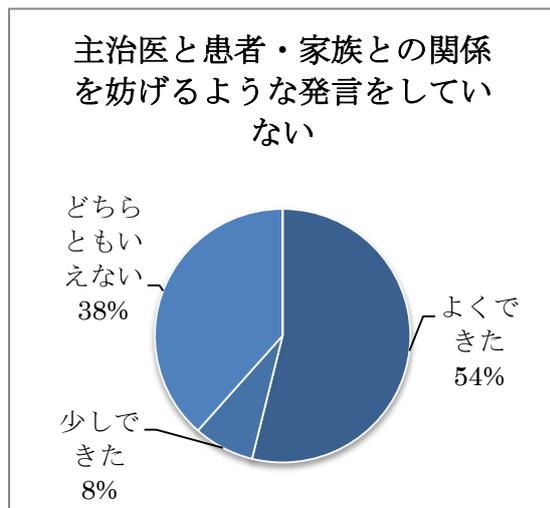
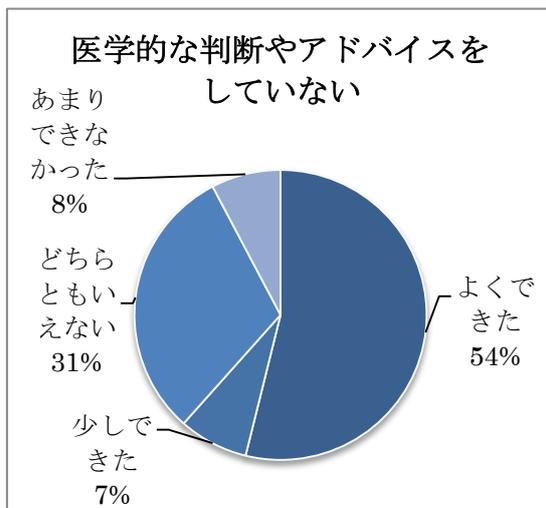


Q10. サロンについてのご意見・ご感想

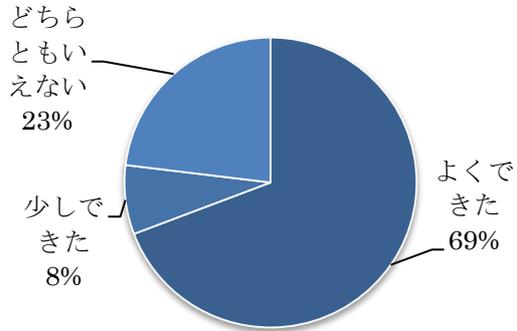
・いいなと感じてます。頭も整理し自分にも出来ることががんばります。

自己チェックシート 昼の部・夜の部合算【ピアサポーター9名：14件】

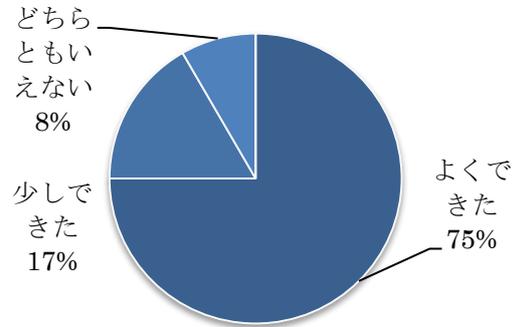
1. 対応について



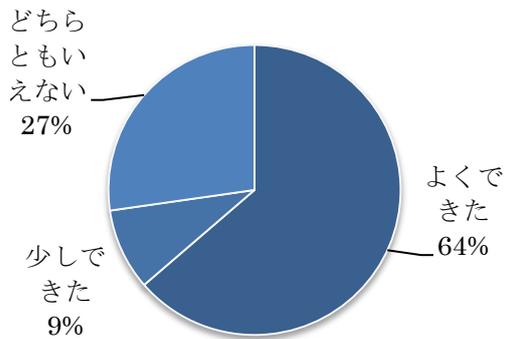
ピアサポーターの個人的な
意見などを押し付けていない



相談者の個人情報
不適切に扱ったりしていない

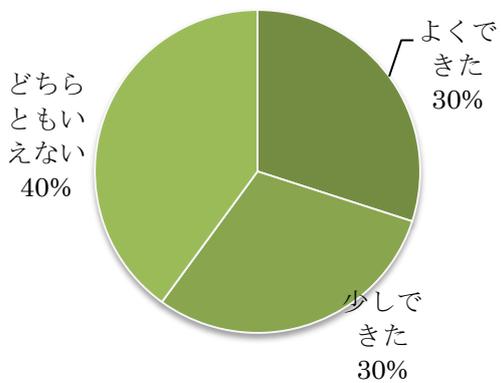


自分自身の個人情報
伝えていない

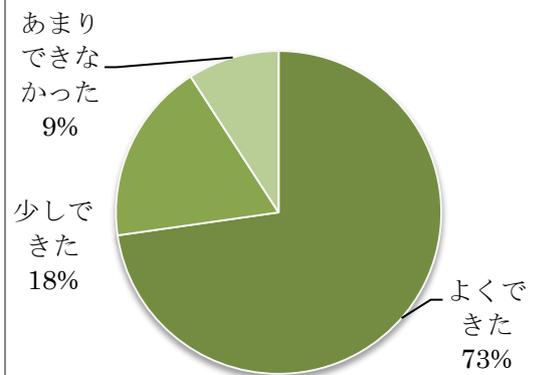


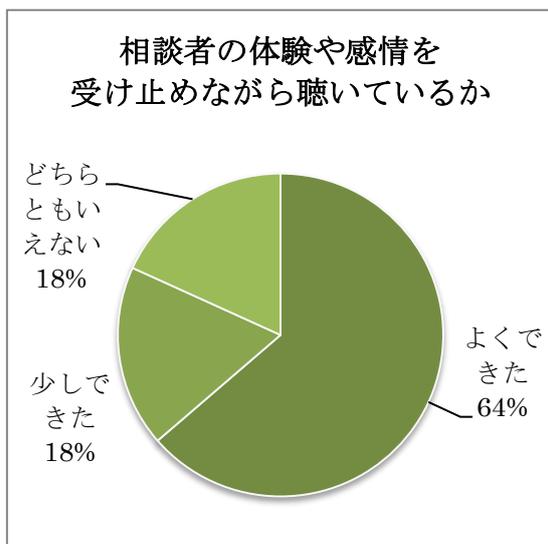
2. 相談者について

相談者が話しやすいと思える
ような対応をしているか



相談者の話を
十分に聞き入っているか





3. ピアサポートを実施して、相談者に変化はあったか？
- ・警戒心がなくなり、話がどんどん出てきた 8 件
 - ・感情の表出があった（泣く、起こる、黙るなど） 0 件
 - ・同じ質問の繰り返しであった 1 件
 - ・表情が明るくなり、声のトーンや言葉が前向きになった 2 件
 - ・話を聞いてもらってよかったという反応があった 1 件
 - ・その他 1 件

4. ピアサポートを行っていて困ったことや悩んだことはあったか？
- ・特になかった 6 件
 - ・困ったこと、悩んだことがあった 3 件

内容	どのような対応をしたか	相談者の反応は？
どう話しかけていいかまよった。	治療の状況を聞いた。	ていねいにお話してくれた。
どのような話をしたらよいかとまよった。	何か困ったことはないですか？と声かけした。	話しはじめてくれた。
十分に対応できなかつた。	増田先生が親身になって対応していた。	親を思う気持ちがひしひしと伝わってきた。

当日の様子



▲ウォーキング教室

はじめにウォーキングについての講義を行い、実際にRFLのコースを歩いた。



▲サロンタイム（昼の部）

2グループに分かれて行い、講師の先生も参加して下さった。



▲サロンタイム（夜の部）

RFL 実行員会との協働により交流ブースにて行った。2グループに分かれている。

広報

案内チラシ（患者会、がん診療専門機関、市町村役場等 計 143 件に送付）



リレー・フォー・ライフ RFLでがんピアサロン 開催するよ!

参加無料
ただし、サバイバー以外の場合は、RFLへの参加料（千円）が必要です。

講師
がんサーフィットネス認定インストラクター
まじま なおこ 氏

第1部 16:00～ ウォーキング教室
当日は歩きやすい服装と靴でお越しください。
ウォーキングのあとは、麦茶を飲みながらサロンでおしゃべりしましょう♪

定員20名 事前申込不要
当日会場で受付します（先着順）

※ウォーキング中の負傷等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

第2部 20:00～ ナイトサロンでおしゃべり会
定員なし 事前申込不要
当日会場で受付します

日時：平成29年11月11日（土）
第1部 16:00～18:00（ウォーキング教室は17:00まで。以降はサロンタイム）
第2部 20:00～21:30
場所：てだこ広場（リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017沖縄うらそえイベント会場内）

がんピアサロンに関するお問合せ
沖縄県地域統括相談支援センター（がんピアサポート相談室）
琉球大学医学部附属病院内
TEL 098-942-3407

がんピアサポート 沖縄

平成29年度沖縄県委託事業

新聞（週刊レキオ「あまくま情報局」）



琉球新報の副読紙
2017
11.9
No.1698
LEQUIO

vol.1698 2017.11.09 Lequio 20

21面から あまくま情報局 19面へ

■がんピアサロン 11日(土)第1部16:00～18:00、
第2部20:00～21:30 浦添市てだこ広場 無料
(全2回) 対象:患者および家族 詳細は要問い合わせ ☎098-942-3407 [県地域統括相談支援センター]

イベント無料掲載サイト

このスクリーンショットは、Goo-netのイベント情報ページを示しています。メインコンテンツには「がんピアサロン」のイベント詳細が掲載されており、「参加無料」のバッジが目立ちます。また、右側のサイドバーには「ハローワーク/看護師」の求人検索機能が提供されています。

goo-net

広告のため省略

この部分は、イベントの詳細説明を拡大表示しています。ここでは、イベントの目的や参加方法、およびお問い合わせ先などの重要な情報が確認できます。

こくちーず

このスクリーンショットは、こくちーずのイベントページを示しています。デザインはシンプルで、イベントの魅力を効果的に伝えるためのレイアウトが採用されています。

ぴらつか暦

このスクリーンショットは、ぴらつか暦のイベントページを示しています。ダークテーマのデザインが特徴的で、イベントの重要性を強調しています。

がんピアサポーター交流会 開催報告書

●目的

ピアサポーター間の親交を深め、活動意欲の維持を図る。

また1年間の活動を振り返り、良かった点を皆で共有し反省点はお互いにアドバイスし合うなど、次年度に向けての意見交換を行う。

●概要

- (1) 名称 がんピアサポーター交流会
(2) 日時 平成29年12月2日(土) 14:00~16:00
(3) 場所 北谷町海業振興センター うみんちゅワーフ 2階 会議室
(4) 会費 500円(茶菓子代として)
(4) 参加者 がんピアサポーター 2名(1名体調不良により欠席)
沖縄県地域統括相談支援センター 相談員 橋本 佳奈
沖縄県地域統括相談支援センター 相談員 中山 富美
沖縄県地域統括相談支援センター 相談員 仲田 ひろ子
沖縄県地域統括相談支援センター 相談員 西村 克敏
沖縄県地域統括相談支援センター 担当者 安里 君代

●次第

開始	終了	時間	内容
14:00	14:05	5分	自己紹介
14:05	14:20	15分	事業報告(平成29年2月~11月) ・がんピアサロン3回(2/5、7/2、11/11) ・がんピアサポーター養成講座(7/22、8/19、9/9) ・那覇市立病院院内患者サロン参加(8/16) ・沖縄県立八重山病院院内患者サロン参加(9/16)
14:20	15:30	70分	意見交換及び歓談
15:30	16:00	30分	相談員ミーティング

●事業報告

昨年のピアサポーター交流会後からピアサポーターが参加した事業について写真資料を

用いて報告を行った。ピアサポーターに関係するもののみ報告している。

●意見交換及び歓談

参加者は2名と少なかったが、1つのテーブルに着き全員が発言することができた。

ピアサポーターからの提案で「活動してきて今までで1番印象深かった人」をテーマにそれぞれが発表を行った。自分とは違った対応の仕方やケースを知る機会となり、プライバシーに配慮した説明をする練習にもなった。また、ピアサポートはその場限りのことも多いため、その後どうなったのか知ることができないもどかしさもあるようだ。



▲意見交換及び歓談の様子

ピアサポーター養成講座を受講したきっかけや最近のできごとをお互いに話すなど、サポーター同士だけでなく、相談員との交流の場でもあった。

●相談員ミーティング

2月開催予定のがんピアキャラバンについて進捗状況の報告を行った。

活動休止していた相談員の仲宗根さんが復帰するにあたり、相談員から注意事項や引継ぎ等の有無の確認を行った。

●所感

少人数だったため全員で同じ話題を共有でき、雰囲気良く進行した。また、ふだんのサロンでは話さない内容もあったため、活動の刺激になったのではないかと思う。

自身の体調に関する話題では他の皆からアドバイスや意見をもらうなど、お互いにピアサポートし合う場面が見られ、ピアサポーターにもピアサポートや吐き出しの場が必要であると改めて感じた。

参加人数がもう少し増えれば、更に仲間意識の向上も期待できる。

場所は静かで駐車場も広く、新しく綺麗であった。しかし参加人数の少なさから場所の再調整が必要である。日程も含めて次年度の課題とする。